

大分大学 「ホームカミングデー2018」を開催

大分大学は、11月4日（日）に「ホームカミングデー2018」を開催し、県内外から集まった同窓生等106名が懐かしい恩師や旧友と交流を深めました。

「ホームカミングデー2018」は、今年も学生交流会館 *B. Forêt*（ビ・フォーレ）で行われ、第一部の「交流会」では、北野正剛学長より大学を取り巻く状況説明や、地域防災の重要性に鑑み本年1月に「減災・復興デザイン教育研究センター」通称 CERD（サード）を開設したこと、開設に伴う地域における取り組み状況、また、同窓会・同窓生の方々に、本学との交流と親睦が一層促進されること、さらには、本学の今後の更なる発展のためにご支援・ご協力をお願いしたい旨の挨拶がありました。

交流会の中で2016年から続けて行われている「同窓生による講演会」では、同窓生を代表して、福祉社会科学研究科同窓会の九峰会会員である社会福祉法人とんとん常務理事の田中一旭氏より「療育分野からの福祉社会研究」と題した講演がありました。

最後に、各学部長等から各学部・研究科等の現況説明が行われました。

第二部の「懇親会」では、今年初めての試みで、冒頭に在学生によるアトラクションとして「邦楽部」の合奏や「混声合唱団コール・レティッヒ」による合唱が行われました。続いて翔工会の松尾孝美会長から開会挨拶があり、松尾会長による乾杯の音頭により開宴されました。開宴後は立食形式で自由にご歓談いただき、途中で元理事の前田明名誉教授による挨拶が行われた後、豊友会・四極会の各同窓生からスピーチがあり各同窓生の現況等が紹介され、旧友、恩師、教員らと昔話に花を咲かせ、同窓生と在学生との交流も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、九峰会の安東千秋会長による挨拶が行われ宴が締めくくられました。

同窓生からは「同窓生による講演会の内容は仕事にも関わりのある話で、興味深いもので良かった。各学部の現状も詳しく聞けて良かった。」「久しぶりに大学にきてみて、学園祭が昔と同じようににぎやかに開催されていることに感銘を受けた。この地を訪れると、何年たっても学生時代がよみがえってくる。なつかしい。」といった感想が寄せられました。



(左から) 交流会で挨拶する北野学長、松尾同窓会連合会副会長



交流会で同窓生を代表して講演する 田中様



合奏する邦楽部



混声合唱団コール・レティッヒの合唱風景



懇親会で開会の挨拶をする翔工会の松尾会長



懇親会風景